

(令和7年12月10日 午前9時00分 開始)

○議員（岸本 茂樹議員） 皆さん、おはようございます。初めての一般質問をさせていただく岸本と申します。よろしくお願いします。何分初めてのことなので、緊張してとちることもあると思いますが、そこは寛大な心で見守っていただけたらと思います。

さて、川南町の水産業は、沿岸マグロはえ縄漁業、地元のはえ縄漁業、引き縄漁業、一本釣り、小型底引き、伊勢海老磯建てタコつぼ、漁業などで構成され、多岐にわたっております。地元での水揚げを見ると、一昔前までは季節ごとに魚種が変わり、春にはカツオ、マダイ、夏にはアジ、シイラ、タコ、クルマエビ、秋にはイセエビ、フグ、アマダイ、レンコダイ、冬にはヒラメ、サワラ、サゴシ、イカなどが水揚げされて大変にぎわってありました。

ところが、近年、資源の枯渇化や環境の変化などによって水揚げが激減し、現在では水揚げされない魚種も多くあります。特にシイラ、クルマエビ、カニ類はほとんど水揚げされておりません。

今、漁業者を悩ませているのがサメで、水揚げされても売れない状況が続いております。この状況を救済するために、今般、水産資源を活用した新たな価値創造プロジェクトのガバメントクラウドファンディング事業が開始されたことについて、漁業者も大変喜んでおります。

そこで、令和7年9月から始まった当該プロジェクトの現在の進捗状況と今後の取組について伺います。

あとの質問は、質問席にて行います。

○町長（宮崎 吉敏君） 岸本議員の御質問にお答えします。

現在のガバメントクラウドファンディングの進捗状況ですが、本日の午前8時時点での寄附額が863万4000円となっております。当初目標金額としておりました500万円については、令和7年10月9日に達成し、それ以降はネクストゴールとして目標金額を800万円と設定いたしましたが、うれしいことにその額も大きく超えております。

なお、寄附の受付期間につきましては、令和7年9月12日から、くしくも本日でありまして12月10日の夜12時までとしておりますので、寄附額はまだ増加するのではないかと考えております。

最後に、今後の取組としましては、未利用魚であるサメを活用した商品の開発や通浜ブランドのトータルデザイン、取引先の開拓などを行ってまいります。

以上です。

○議員（岸本 茂樹議員） 分かりました。今後ともさらなる努力をお願いいたします。

次に、クラウドファンディングで集まった財源の具体的な使途及び今後の事業展開について伺います。

○町長（宮崎 吉敏君） 岸本議員の御質問にお答えします。

集まった財源の具体的な使途については、ガバメントクラウドファンディングのプロジェクトページにも記載のとおりでございますが、①通浜ブランド創出協議会の運営費、②試作品開発のための原材料購入費、③製品化した際のパッケージ等のデザイン費、④通浜ブランドの広報費等に活用いたします。

また、今後の事業展開についてですが、前述いたしました具体的な使途に沿った事業を展開してまいります。

なお、詳細につきましては、産業推進課長に答弁させます。

○産業推進課長（河野 英樹君） 岸本議員の御質問にお答えします。

今後の具体的な事業展開につきまして申し上げます。現在、通浜ブランド創出協議会を中心に、漁具を荒らす厄介者であり、市場価値のつかない、いわゆる未利用魚でありますサメを活用した事業化に向け取り組んでおります。

近年このサメが増加の傾向にありまして、仕掛けを荒らしたり、せっかくかかった魚を食い荒らすといった現状がございます。しかしながら、市場で値段のつかないサメを適切に駆除することなく、そのまま海上で逃がすことが多く、悪循環が生じているような状況です。

最近では、積極的な営業活動や商談に加え、地元テレビ局でのメディア取材等を通して、着実に当協議会の未利用魚サメの利活用についての取組は認知され始めているものと感じております。

今後は、さらに一般消費者の方に食べていただき、おいしさを実感していただくために、未利用魚のサメを使ったフライの商品化を進めてまいります。加えて、直売所通浜や地域活性化拠点施設 P L A T Z（ぷらっつ）での販売、ふるさと納税の返礼品としての流通を見据えて、商品パッケージのデザインを含めたトータルデザインを外部デザイナーを招聘して行っていく予定としております。

以上です。

○議員（岸本 茂樹議員） 今後ともまた積極的な活動をよろしくお願いしたいと思います。

次に、この事業が来年度以降も継続的な取組が行われるのか。また、追加事業があるのか伺います。

○町長（宮崎 吉敏君） 岸本議員の御質問にお答えします。

来年度以降の通浜ブランド創出協議会の事業についてですが、このことについては、次年度の協議会の事業計画を総会に諮り、承認されたものに基づいて実施されるものと考えておりますが、基本的な考え方としては、魚価を向上させ、漁業者の所得を上げるという

ことを目標に掲げておりますので、この目標に沿った取組を継続的に行ってまいりたいと考えています。

なお、詳細につきましては、産業推進課長に答弁させます。

○産業推進課長（河野 英樹君） 岸本議員の御質問にお答えします。

来年度以降の事業の継続的な取組や追加事業につきまして申し上げます。基本的な考え方は町長が答弁されたとおりでございますが、現在取り組んでおります未利用魚サメの利活用については、当然、単年で結果の出るものではございません。本年度は認知度を向上させるために、メディア等へのプレスを積極的に行ってまいりましたが、次年度以降は、取引先の拡大や全国への販路拡大を図るなど、課題はまだ山積みの状態です。この課題について真摯に向き合いつつ、漁協等との連携を密にし、現場とのギャップが生じないように配慮しながら、目標達成に向けて引き続き取組を進めてまいります。

また、先ほどの答弁でも申し上げましたが、未利用魚サメの一般消費を図るためのサメフライの商品化、トータルデザインを行うための外部デザイナーの招聘などを、次年度の事業として検討していきたいと考えております。

追加事業につきましては、取組を進めていく中で、追加で事業を行っていく必要が生じた際に、適宜協議会に諮りながら実施していきたいと考えております。

以上です。

○議員（岸本 茂樹議員） 分かりました。また、さらなる事業展開を期待しております。よろしくお願いします。

次に、防災集団移転事業について伺います。

近年、地震や線状降水帯の頻発による土砂災害、台風襲来による被害など、自然災害によって町民の生活が脅かされております。自主防災組織を設置している地域もありますが、自主防災の活動には限界があります。

そこで、国が行う防災集団移転事業に対する町の考え方と今後の方針について伺います。

○町長（宮崎 吉敏君） 岸本議員の質問にお答えいたします。

防災集団移転事業、この事業については、住民の生命、財産を守る大変重要な事業の一つであると認識しています。財源やほかの事業との優先度・重要度を考慮しながら検討してまいります。

以上です。

○議員（岸本 茂樹議員） 分かりました。これからまた検討をよろしくお願いいたしますと思います。

次に、防災集団移転事業に関する町民への情報提供は、今後どのようにしていくのかお伺いします。

○総務課長（米田 政彦君） ただいまの御質問にお答えします。

まずは、この事業について説明会を開くなどして、対象となる地域の方々の正しい理解

に努めてまいります。

以上です。

○議員（岸本 茂樹議員） 分かりました。今後、地域住民に対する情報提供をよろしく
お願いいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。

（ 午前9時17分 終了 ）